

サラリーマン世帯の主婦 1000 名に聞く

2011 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 22 弾～

2011 年6月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

<目 次>

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の実施要領	2
3. 回答者及び回答者世帯の基本属性	3
II. 調査結果	6
〔1〕 この夏のボーナス	7
1. この夏のボーナスの手取り額	7
2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較と増減理由	9
3. ボーナス手取り額の満足度	11
4. ボーナスの今後の見通し	12
5. ボーナスの主な使い道	13
6. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額	17
7. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	18
8. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると	21
〔2〕 わが家の家計	23
1. 家計についての現状認識	23
2. 今後の家計の見通しとその理由	26
3. 家計防衛のための節約行動の増減	29
〔3〕 夫に内緒の資産	32
1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	32
2. 『夫に内緒の資産』の保有額	34
3. 『夫に内緒の資産』の増減	38
4. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し	41
〔4〕 東日本大震災による生活や意識の変化	43
1. 震災がきっかけで処分したものまたは今後処分予定のもの	43
2. 今年の夏を乗り切るための節電やエコの工夫	44

I . 調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

22回目となる今回は、2011年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 1000名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦1000人

<サンプル配分>

合 計	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳
1000	250	250	250	250

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成23年6月10日～6月15日

(4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額と増減理由
- ・ボーナス手取り額の満足度（100点満点）
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・今年の夏のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・家計防衛のための節約行動の増減
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・東日本大震災がきっかけで処分したもの（処分予定のもの）
- ・今年の夏を乗り切るための節電やエコの工夫
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

■妻の年齢

	サンプル 数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	平均（歳）
全 体	1000 100.0	24 2.4	226 22.6	103 10.3	147 14.7	146 14.6	104 10.4	182 18.2	68 6.8	39.7

■妻の職業

		サンプル 数	正規有職	パート	専業主婦
全 体		1000 100.0	168 16.8	243 24.3	589 58.9
妻 の 年 代	20代	250 100.0	58 23.2	39 15.6	153 61.2
	30代	250 100.0	39 15.6	48 19.2	163 65.2
	40代	250 100.0	35 14.0	88 35.2	127 50.8
	50代	250 100.0	36 14.4	68 27.2	146 58.4

■夫の年齢

		サンプル 数	20代	30代	40代	50歳以上
全 体		1000 100.0	176 17.6	287 28.7	274 27.4	263 26.3
妻 の 年 代	20代	250 100.0	174 69.6	71 28.4	5 2.0	－ －
	30代	250 100.0	2 0.8	202 80.8	45 18.0	1 0.4
	40代	250 100.0	－ －	14 5.6	212 84.8	24 9.6
	50代	250 100.0	－ －	－ －	12 4.8	238 95.2

■夫の勤務先での役職

		サンプル 数	役職なし	係長・主 任クラス	課長クラ ス	部長クラ ス以上
全 体		1000 100.0	414 41.4	262 26.2	213 21.3	111 11.1
妻 の 年 代	20代	250 100.0	188 75.2	48 19.2	10 4.0	4 1.6
	30代	250 100.0	114 45.6	93 37.2	39 15.6	4 1.6
	40代	250 100.0	56 22.4	74 29.6	86 34.4	34 13.6
	50代	250 100.0	56 22.4	47 18.8	78 31.2	69 27.6

■夫の勤務先の業種

		サンプル 数	水産・農 林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガ ス業	運輸・情 報通信業	商業	金融・不 動産・ サービス
全 体		1000 100.0	6 0.6	63 6.3	347 34.7	74 7.4	120 12.0	94 9.4	296 29.6
妻 の 年 代	20代	250 100.0	3 1.2	16 6.4	84 33.6	14 5.6	35 14.0	27 10.8	71 28.4
	30代	250 100.0	1 0.4	13 5.2	84 33.6	10 4.0	37 14.8	22 8.8	83 33.2
	40代	250 100.0	2 0.8	17 6.8	94 37.6	24 9.6	28 11.2	22 8.8	63 25.2
	50代	250 100.0	－ －	17 6.8	85 34.0	26 10.4	20 8.0	23 9.2	79 31.6

■世帯構成

		サンプル 数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代・4 世代同居	親夫婦と 子夫婦・ 自分たち 夫婦と親	その他
全 体		1000 100.0	325 32.5	594 59.4	60 6.0	17 1.7	4 0.4
妻 の 年 代	20代	250 100.0	125 50.0	115 46.0	7 2.8	2 0.8	1 0.4
	30代	250 100.0	60 24.0	169 67.6	14 5.6	7 2.8	－ －
	40代	250 100.0	74 29.6	154 61.6	20 8.0	2 0.8	－ －
	50代	250 100.0	66 26.4	156 62.4	19 7.6	6 2.4	3 1.2

■扶養中の子ども

		サンプル 数	いる	いない
全 体		1000 100.0	578 57.8	422 42.2
妻 の 年 代	20代	250 100.0	115 46.0	135 54.0
	30代	250 100.0	168 67.2	82 32.8
	40代	250 100.0	160 64.0	90 36.0
	50代	250 100.0	135 54.0	115 46.0

■住まいの形態

		サンプル 数	一戸建て 持ち家	一戸建て 借家	分譲集合 住宅	賃貸集合 住宅	社宅・寮
全 体		1000 100.0	392 39.2	25 2.5	239 23.9	286 28.6	58 5.8
妻 の 年 代	20代	250 100.0	39 15.6	3 1.2	35 14.0	150 60.0	23 9.2
	30代	250 100.0	87 34.8	9 3.6	56 22.4	80 32.0	18 7.2
	40代	250 100.0	119 47.6	6 2.4	75 30.0	40 16.0	10 4.0
	50代	250 100.0	147 58.8	7 2.8	73 29.2	16 6.4	7 2.8

■住宅ローンの有無

		サンプル 数	ある	ない
全 体		1000 100.0	466 46.6	534 53.4
妻 の 年 代	20代	250 100.0	58 23.2	192 76.8
	30代	250 100.0	129 51.6	121 48.4
	40代	250 100.0	154 61.6	96 38.4
	50代	250 100.0	125 50.0	125 50.0

■世帯年収

		サンプル 数	400万円 未満	400～600 万円未満	600～800 万円未満	800～ 1000万円	1000万円 以上
全 体		1000 100.0	75 7.5	283 28.3	251 25.1	197 19.7	194 19.4
妻 の 年 代	20代	250 100.0	39 15.6	122 48.8	52 20.8	27 10.8	10 4.0
	30代	250 100.0	17 6.8	87 34.8	84 33.6	39 15.6	23 9.2
	40代	250 100.0	8 3.2	48 19.2	68 27.2	60 24.0	66 26.4
	50代	250 100.0	11 4.4	26 10.4	47 18.8	71 28.4	95 38.0

■居住地区

		サンプル 数	東日本	西日本
全 体		1000 100.0	669 66.9	331 33.1
妻 の 年 代	20代	250 100.0	148 59.2	102 40.8
	30代	250 100.0	173 69.2	77 30.8
	40代	250 100.0	187 74.8	63 25.2
	50代	250 100.0	161 64.4	89 35.6

※東日本は北海道、東北、関東、甲信越及び静岡。

※西日本は愛知、岐阜、近畿（三重を含む）、北陸、中国、四国、九州及び沖縄。

Ⅱ．調査結果

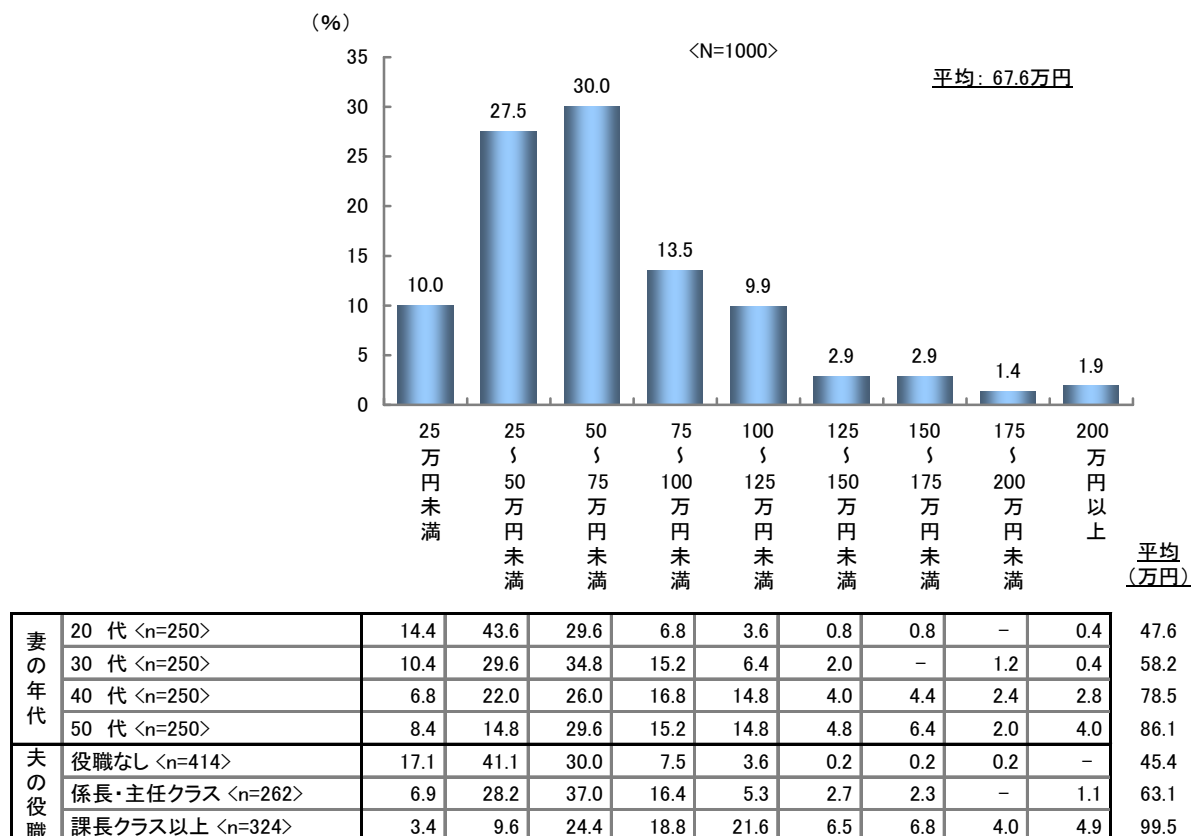
〔1〕この夏のボーナス

※『この夏のボーナス』とは 2011 年夏に夫が受給したボーナスを指し、奥様やお子様など他のご家族が受給したボーナスは含みません。

1. この夏のボーナスの手取り額

この夏のボーナス平均受給額(手取り)は、「67.6 万円」。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



夫が受給したこの夏のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。サラリーマン世帯の主婦 1000 名に聞きました。

「50～75 万円未満」(30.0%) が最も多く、続く「25～50 万円未満」(27.5%) も合わせると、「25～75 万円未満」が 6 割近く (57.5%) を占めています。以下、「75～100 万円未満」(13.5%)、「25 万円未満」(10.0%)、「100～125 万円未満」(9.9%) など続き、平均は「67.6 万円」となっています。

- 妻の年代別に受給額の平均をみると、上の年代ほど金額が高く、《20 代》(47.6 万円) と《50 代》(86.1 万円) では、その差は約 40 万円となっています。
- 夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(45.4 万円) と《課長クラス以上》(99.5 万円) では 50 万円以上の差があります。
- 居住地区別の受給額の平均をみると、《東日本》は 69.0 万円で、《西日本》の 64.7 万円

を 4.3 万円上回っています。

■昨夏の調査結果との比較■

平均額は 67.0 万円→67.6 万円と、僅かながら増加しています。

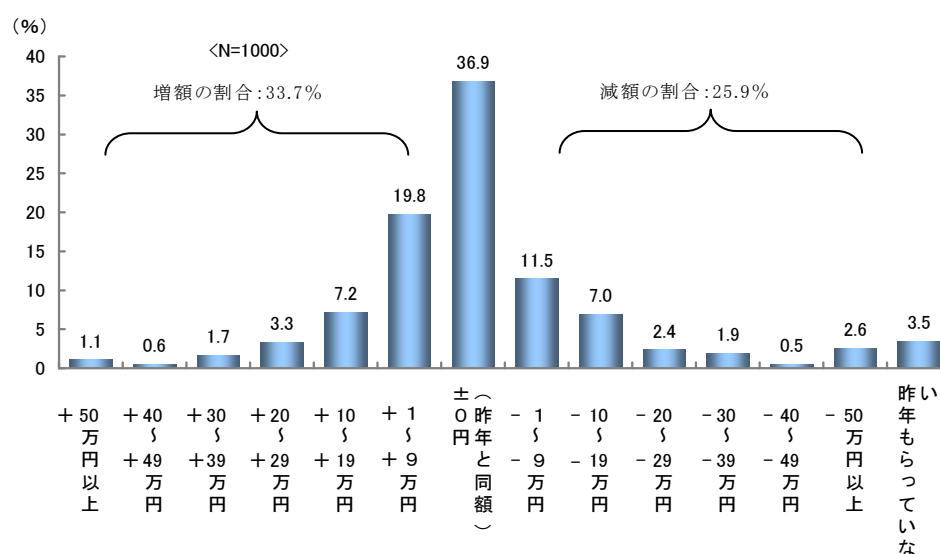
2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較と増減理由

“増えた”が3割強(33.7%)で“減った”の25.9%を上回る。

※“増えた”は、「+1～9万円」から「+50万円以上」の合計を表します。“減った”は、「-1～9万円」から「-50万円以上」の合計を表します。

昨年夏比のボーナス増減理由のトップは、増えた、減った共に「会社の業績」との認識。

図 2. この夏のボーナスと、昨夏のボーナスとの増減比較



妻の年代	20代<n=250>	-	-	0.8	3.6	13.2	27.2	32.8	9.2	3.6	1.6	0.8	-	1.2	6.0
	30代<n=250>	0.4	0.4	1.2	2.8	5.2	27.2	35.2	15.2	4.8	1.2	1.2	-	1.2	4.0
	40代<n=250>	2.4	0.8	2.0	4.8	7.2	12.8	36.0	11.2	8.4	3.6	3.6	1.2	3.6	2.4
	50代<n=250>	1.6	1.2	2.8	2.0	3.2	12.0	43.6	10.4	11.2	3.2	2.0	0.8	4.4	1.6
夫の役職	役職なし<n=414>	0.2	0.2	1.0	2.9	8.0	23.4	36.5	11.4	5.6	1.4	1.9	-	1.0	6.5
	係長・主任クラス<n=262>	0.8	-	1.5	3.4	6.9	24.4	33.2	15.6	5.0	3.4	1.9	1.1	1.9	0.8
	課長クラス以上<n=324>	2.5	1.5	2.8	3.7	6.5	11.4	40.4	8.3	10.5	2.8	1.9	0.6	5.2	1.9

次に、この夏のボーナスに対する増減をみると、昨夏より“増えた”が3割強(33.7%)を占め、“減った”(25.9%)を上回っています。

- 妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えた”人の割合が高くなっています。《20代》(44.8%)は《50代》(22.8%)の約2倍となっています。
- 夫の役職別にみると、役職が上がるにつれて“減った”人の割合が高くなっています。
- 居住地区別に“増えた”人の割合をみると、《東日本》(32.3%)が、《西日本》(36.6%)を下回っています。

■昨夏の調査結果との比較■

“増えた”(40.8%→33.7%)が7.1%減、“減った”(28.4%→25.9%)も2.5%減と共に少なくなっており、“昨年と同額”(28.2%→36.9%)が8.7%増えています。

■ 昨年夏比のボーナス増減の理由 ■

表 1. 昨年夏比ボーナスの増減理由

“増えた”理由			“減った”理由			“昨年と同額”理由		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	会社の業績が良かったから	101	1	会社の業績が悪かったため	92	1	特に何の変化もなかったため	17
2	夫ががんばったから／成績が良かったから	66	2	景気が悪いから	75	2	景気が悪いから	15
3	昇進したから	48	3	震災の影響のため	34	3	会社の業績が良くないから	7
4	基本給が上がったから	34	4	所得税が上がったから	12	4	震災の影響	4
5	昨年が例年に比べて悪かったため	16	5	夫の成績が良くなかったから	10			
6	景気が回復したから	14	6	給与規程、雇用形態が変わったため	9			
7	給与規程が変わったため／天引き分が減ったため	11	7	年齢が高くなったため	7			
8	勤続年数が増えたため	9	8	定年を迎えたため	6			
9	年齢による昇給のため	7	9	休職したため	4			
10	震災の影響で仕事が増えたため	6						

次に夏のボーナスの増減についてそれぞれの理由をあげてもらいました。

“増えた”理由は「会社の業績が良かったから」（101件）が突出しています。次いで「夫ががんばったから・成績が良かったから」（66件）、「昇進したから」（48件）、「基本給が上がったから」（34件）、「昨年が例年に比べて悪かったため」（16件）などがあげられています。

一方、“減った”理由も「会社の業績が悪かったため」（92件）と、会社の業績がトップにあげられています。次いで「景気が悪いから」（75件）、「震災の影響のため」（34件）、「所得税が上がったから」（12件）、「夫の成績が良くなかったから」（10件）などとなっています。

なお、“減った”理由として「震災の影響のため」（34件）と答えた人の居住地区別内訳をみると、《東日本》（28件）が圧倒的に多い結果となっています。

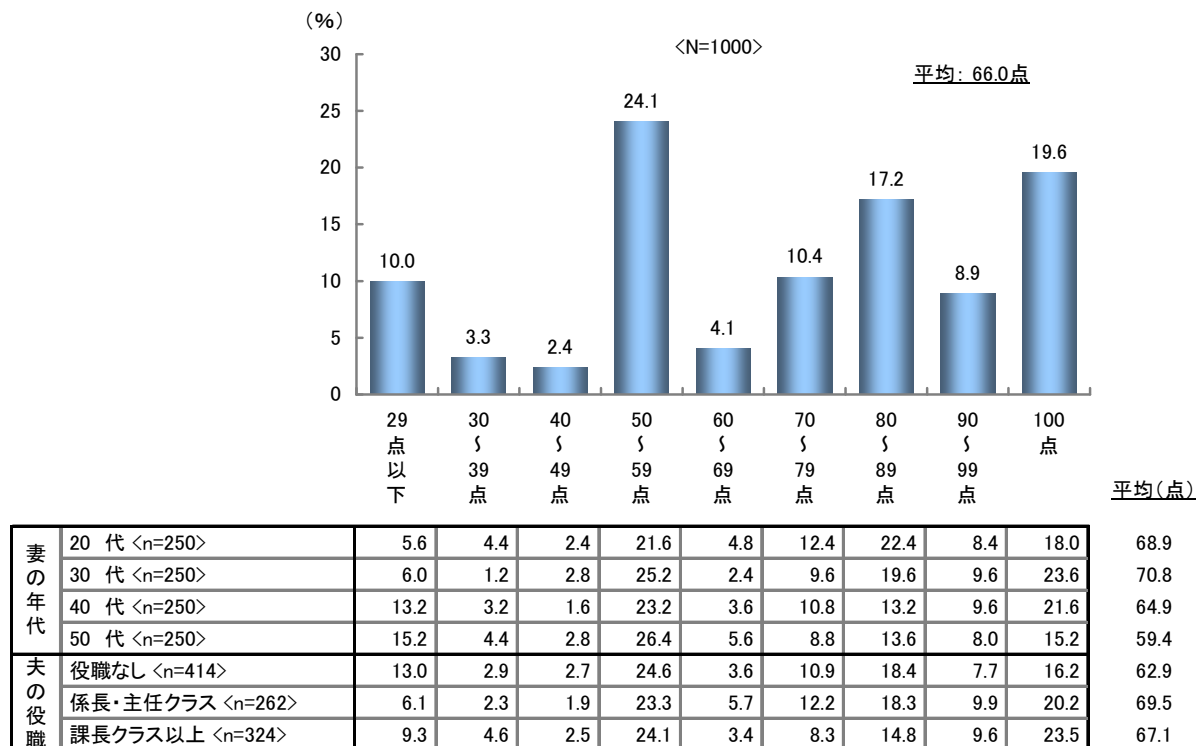
“昨年と同額”の理由は、「特に何の変化もなかったため」（17件）、「景気が悪いから」（15件）となっています。以下、「会社の業績が良くないから」（7件）、「震災の影響」（4件）などがあげられていますが、いずれも10件未満です。

3. ボーナス手取り額の満足度

この夏のボーナス手取り額の満足度は平均「66 点」。

※大満足は 100 点、どちらともいえないは 50 点、全く不満は 0 点を目安に、100 点満点で採点してもらった結果

図 3. ボーナス手取り額の満足度(100 点満点)



ボーナス手取り額の満足度を 100 点満点で採点してもらいました。

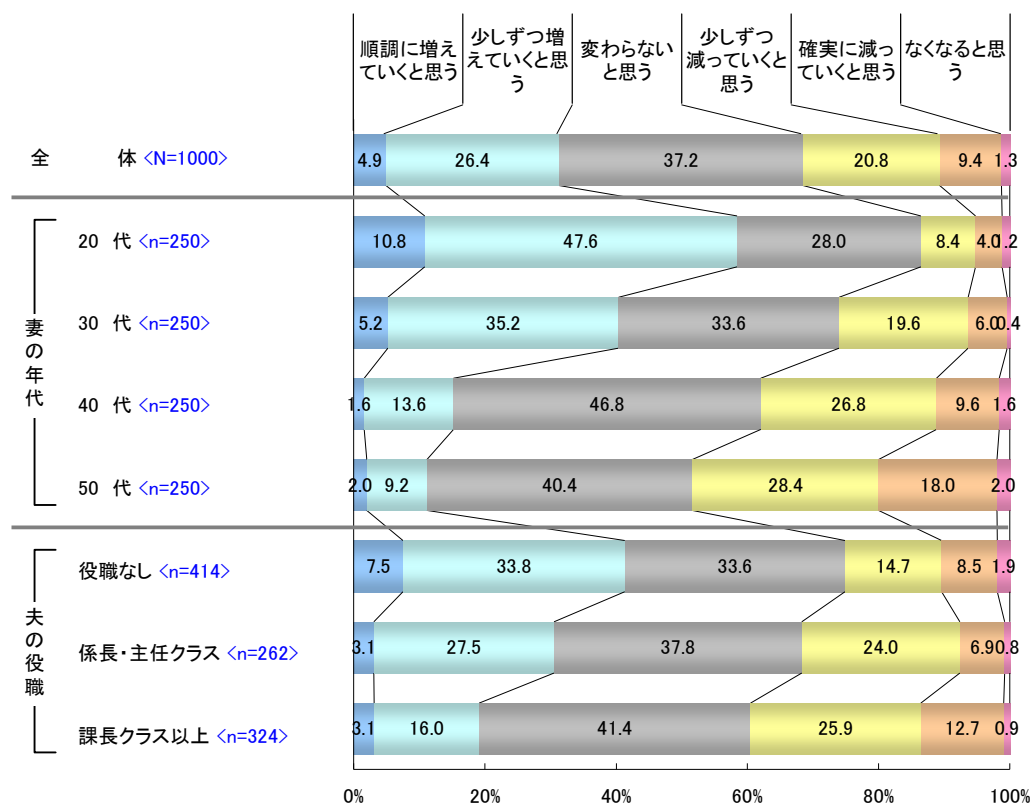
「50～59 点」が 24.1%と 2 割を超えて最も多く、次いで「100 点」が 19.6%となっています。以下、「80～89 点」が 17.2%、「70～79 点」が 10.4%などとなっています。なお、不満と判断される「49 点以下」は 15.7%でした。

- 妻の年代別にみると、「20 代」、「30 代」が 70 点前後であるのに対して、「40 代」は 64.9 点、「50 代」は 59.4 点とやや低い採点となっています。
- 夫の役職別にみると、「係長・主任クラス」が 69.5 点、「課長クラス以上」が 67.1 点、役職なしが 62.9 点という順になっています。
- 居住地区別にみると、「東日本」の 64.0 点に対して「西日本」は 69.9 点であり、満足度は「西日本」の方がやや高くなっています。平均受給額自体は「西日本」の方が少ないものの、昨夏に比べ「東日本」は-0.5 万円、「西日本」は+0.5 万円となっていることが主たる理由と思われます。

4. ボーナスの今後の見通し

“変わらないと思う”(37.2%)が最も多く、“増えていくと思う”(31.3%)と“減っていく+なくなると思う”(31.5%)がほぼ同数。

図 4. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、「変わらないと思う」(37.2%)が最も多い結果となっていますが、「少しずつ増えていくと思う」(26.4%)と、「順調に増えていくと思う」(4.9%)を合わせた“増えていくと思う”(31.3%)と、“減っていく+なくなると思う”(31.5%)が、ほぼ均衡しています。

- 妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う”割合は高く、特に《20代》では6割近く(58.4%)と高率です。一方、《50代》では“増えていく”は約1割(11.2%)で、“減っていく+なくなると思う”(48.4%)が多くなっています。
- 夫の役職別にみると、《役職なし》では“増えていくと思う”(41.3%)が“減っていく+なくなると思う”(25.1%)を上回りますが、《係長・主任クラス》《課長クラス以上》では、“減っていく+なくなると思う”(順に31.7%、39.5%)が、“増えていくと思う”(同30.6%、19.1%)を上回る結果となっています。

■昨夏の調査結果との比較■

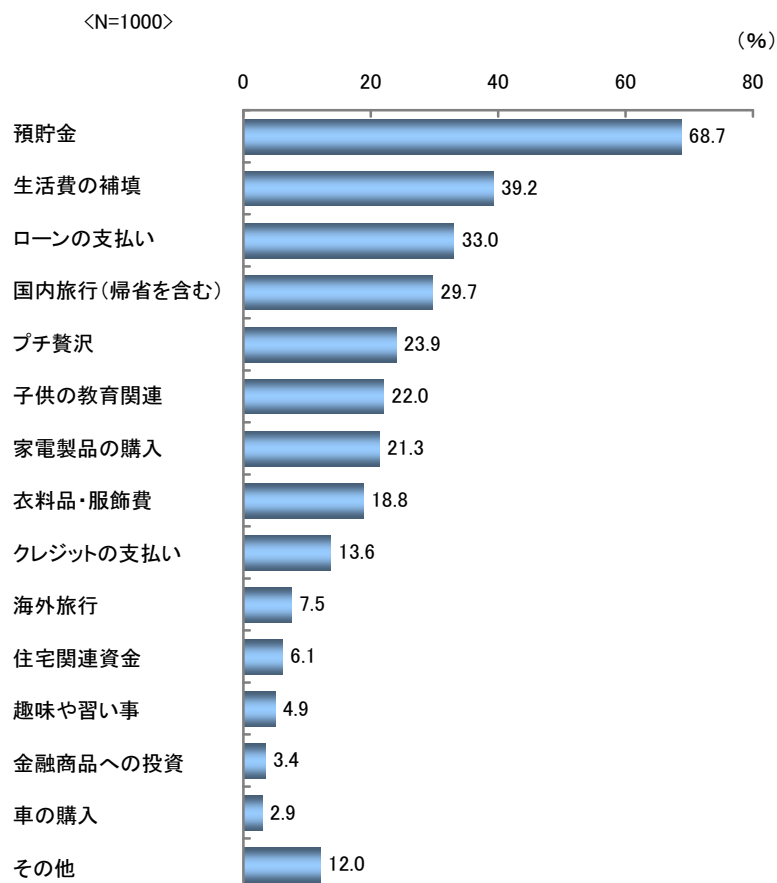
昨夏の調査結果と比べると、“増えていくと思う”(37.0%→31.3%)は減少、“減っていく+なくなると思う”(29.8%→31.5%)は少し増加しており、今後のボーナスについてはやや悲観的な見方が増加しているようです。

5. ボーナスの主な使い道

「預貯金」(68.7%)がトップ。以下「生活費の補填」(39.2%)、「ローンの支払い」(33.0%)が続く。

◆ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」が(35.8%)と、3割を超える。

図 5. この夏のボーナスの主な使い道(複数回答)



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(68.7%)が約7割と飛びぬけて高く、以下「生活費の補填」(39.2%)、「ローンの支払い」(33.0%)が続き、“将来への備え”“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。

以下、「国内旅行(帰省を含む)」(29.7%)、「プチ贅沢」(23.9%)、「子供の教育関連」(22.0%)、「家電製品の購入」(21.3%)、「衣料品・服飾費」(18.8%)などとなっています。

表 2. この夏のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

(%)

	全 体	妻の年代				扶養中の子供		住宅ローン		世帯年収				ボーナス受給額		
		20 代	30 代	40 代	50 代	い る	い ない	あ る	な い	600万 円未満	600～ 800万 円未満	800～ 1000万 円未満	1000万 円以上	50万円 未満	50～ 100万 円未満	100万 円以上
サンプル数	1000	250	250	250	250	578	422	466	534	358	251	197	194	375	435	190
預貯金	68.7	75.6	71.6	66.8	60.8	66.1	72.3	58.6	77.5	69.0	66.1	67.5	72.7	62.7	72.0	73.2
生活費の補填	39.2	32.4	38.0	43.2	43.2	41.7	35.8	45.9	33.3	39.1	41.4	39.6	36.1	38.1	40.7	37.9
ローンの支払い	33.0	21.2	32.4	42.8	35.6	36.7	28.0	60.9	8.6	25.7	34.7	39.1	38.1	26.7	34.0	43.2
国内旅行	29.7	24.8	31.6	32.4	30.0	30.1	29.1	28.1	31.1	26.3	28.3	34.0	33.5	21.6	32.2	40.0
プチ贅沢	23.9	31.2	27.2	20.0	17.2	22.1	26.3	22.1	25.5	23.2	25.9	29.4	17.0	24.8	24.8	20.0
子供の教育関連	22.0	10.0	16.4	36.4	25.2	32.9	7.1	29.0	15.9	13.1	21.1	29.4	32.0	15.5	21.1	36.8
家電製品の購入	21.3	19.2	24.0	24.0	18.0	21.8	20.6	20.2	22.3	18.7	25.5	23.4	18.6	15.7	24.1	25.8
衣料品・服飾費	18.8	20.8	20.4	19.6	14.4	18.3	19.4	16.7	20.6	19.3	17.5	18.8	19.6	14.7	22.3	18.9
クレジットの支払い	13.6	10.8	12.8	14.0	16.8	14.5	12.3	17.4	10.3	12.3	15.1	15.2	12.4	9.6	15.6	16.8
海外旅行	7.5	9.2	6.0	7.2	7.6	4.2	12.1	5.6	9.2	6.1	6.4	6.1	12.9	4.0	7.4	14.7
住宅関連資金	6.1	6.0	8.8	4.4	5.2	6.7	5.2	6.7	5.6	5.9	6.4	7.1	5.2	5.9	6.2	6.3
趣味や習い事	4.9	6.0	7.6	4.0	2.0	4.7	5.2	4.7	5.1	5.9	2.8	7.1	3.6	5.1	4.8	4.7
金融商品への投資	3.4	3.2	2.0	4.4	4.0	3.3	3.6	2.1	4.5	2.0	2.8	3.0	7.2	0.5	3.7	8.4
車の購入	2.9	3.6	3.2	2.4	2.4	3.6	1.9	1.7	3.9	2.8	1.2	2.5	5.7	2.7	2.3	4.7
その他	12.0	12.4	9.6	12.0	14.0	10.0	14.7	10.3	13.5	11.2	14.7	11.7	10.3	9.9	12.9	14.2

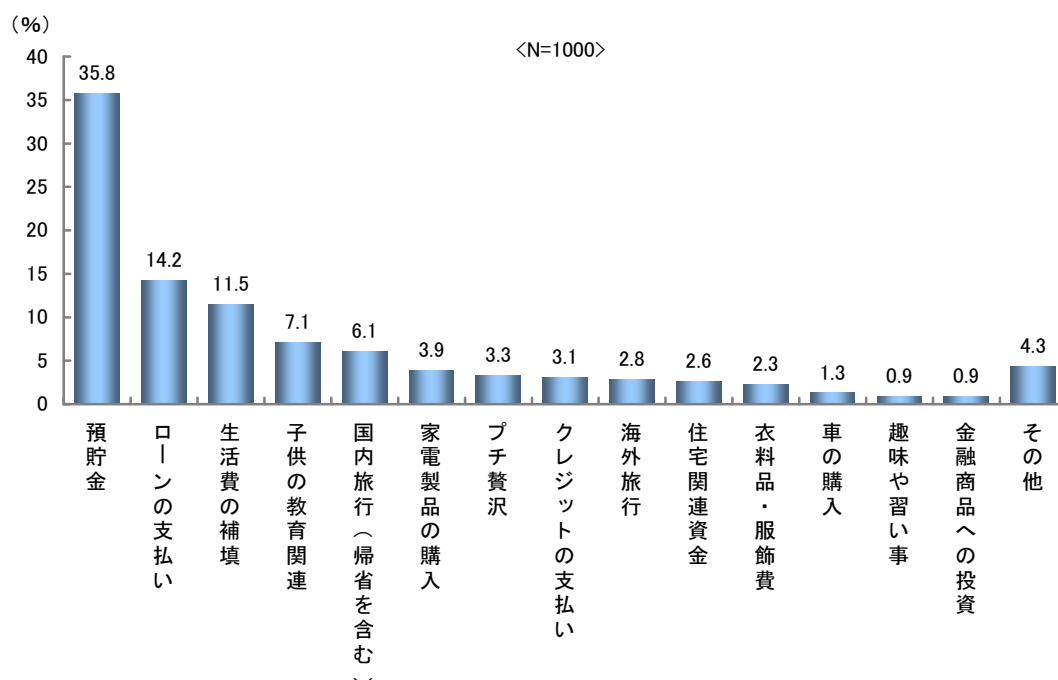
- 妻の年代別にみると、「預貯金」は《20 代》《30 代》の若い年代で高くなる傾向がみられます。《40 代》は「ローンの支払い」（42.8%）、「子供の教育関連」（36.4%）が他の年代よりも高くなっています。
- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「海外旅行」、「預貯金」は《いない》人で高く、「子供の教育関連」、「ローンの支払い」、「生活費の補填」などは《いる》人が高くなっています。
- 住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ない》人は「預貯金」（77.5%）が高率なのに対し、《ある》人では「ローンの支払い」（60.9%）に加え、「生活費の補填」（45.9%）が高くなっており、住宅ローンは家計のゆとりに大きく影響しているようです。
- 世帯年収別でみると、年収が高い人ほど「子供の教育関連」が高くなる傾向があり、また、《1,000 万円以上》の層では「海外旅行」（12.9%）が突出して高くなっています。
“600 万円以上”では「ローンの支払い」も高くなっています。
- ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど「ローンの支払い」「海外旅行」「子供の教育関連」などが多い傾向にあります。受給額《100 万円以上》の層では「海外旅行」（14.7%）が突出して高くなっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「預貯金」（74.2%→68.7%）は 5 ポイント以上減ってい

ます。一方「国内旅行（帰省を含む）」（25.8%→29.7%）、「海外旅行」（5.0%→7.5%）、
「子供の教育関連」（17.8%→22.0%）は増えており、昨夏に比べて「預貯金」より商品・
サービスの消費（購入）などに使う人が増加している様子がうかがえます。

図 6-1. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値を%に換算したもの）



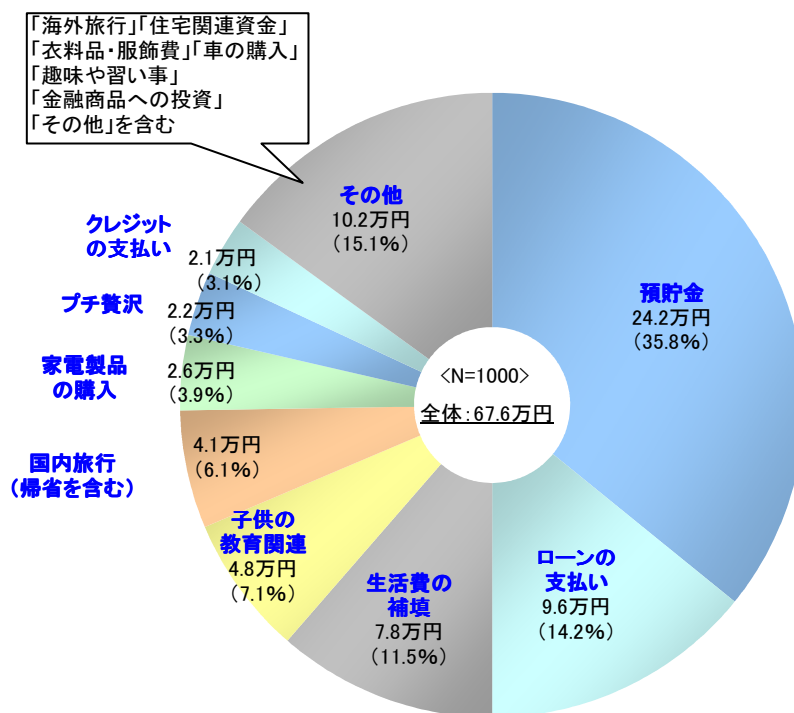
次に、夏のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか
答えてもらいました（グラフは平均値を%に換算したもの）。

割合の平均値をみると「預貯金」（35.8%）が断然高く、ボーナス総額の4割近くが預
貯金に回されている計算になります。以下「ローンの支払い」（14.2%）、「生活費の補填」
（11.5%）が続き、このトップ3で約3分の2（61.5%）を占めています。

「預貯金」は“使い道”と“使う割合”共に1位ですが、“使い道”2位の「生活費の
補填」、3位の「ローンの支払い」は“使う割合”では順位が逆転しています。また、“使
い道”6位の「子供の教育関連」、5位の「プチ贅沢」は“使う割合”では、各4位、7
位となっており、“使い道”と実際に“使う割合”は異なる結果となっています。

図 6-2. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合

(この夏のボーナス平均手取額 67.6 万円を総額とし、金額に換算)



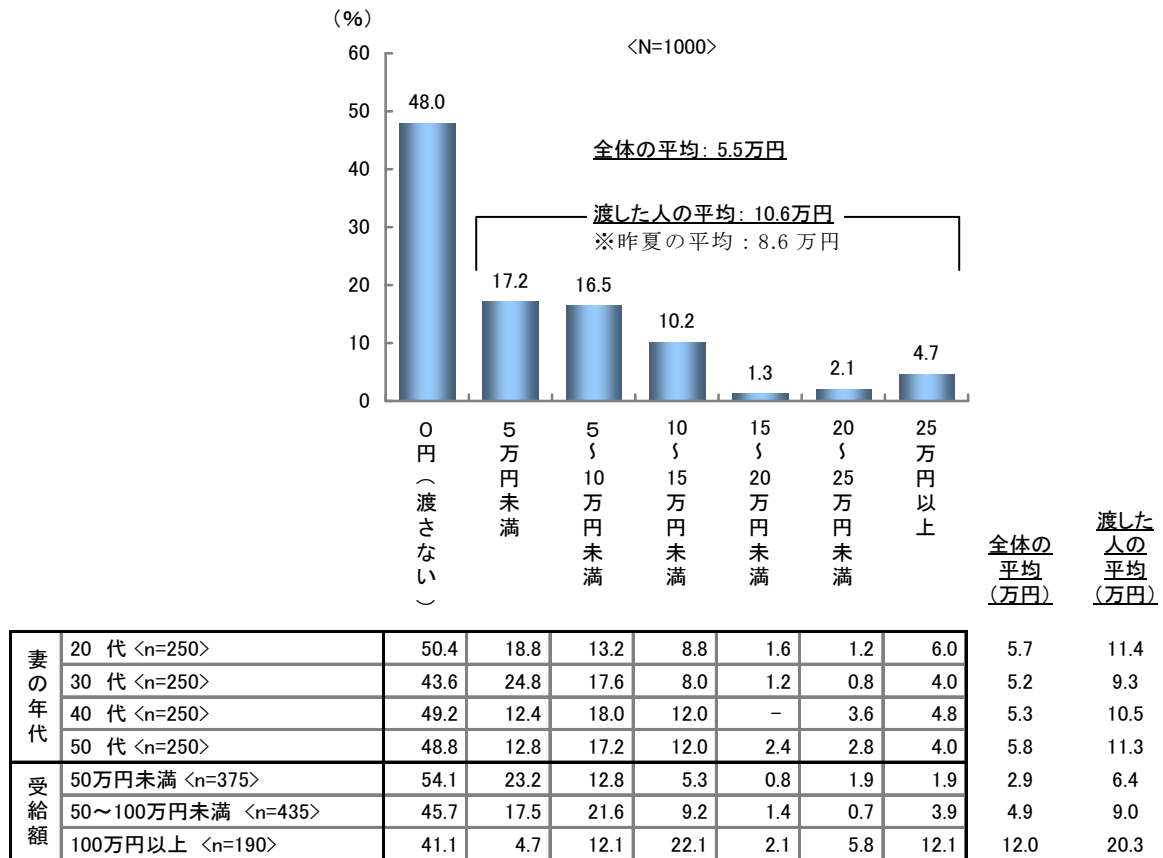
参考までに、今回の夏のボーナスの平均手取額「67.6 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 24.2 万円となりました。

※例えば「国内旅行（帰省を含む）」（4.1 万円）は実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、1000 名の回答を平均でなると、一家庭当たり 4.1 万円に当たることを示しています。

6. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額

「0円（渡さない）」が約半数（48.0%）。
 “渡した（渡そうと思っている）”人では、「5 万円未満」（17.2%）が最も多く、“渡した（渡そうと思っている）”人の平均金額は「10.6 万円」。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞きました。

「0円（渡さない）」が半数近く（48.0%）を占めており、家計を預かる主婦の財布の紐の堅さがうかがえる一方、“渡した”人の平均は「10.6 万円」となりました。渡した金額をみると「5 万円未満」（17.2%）が多く、以下「5～10 万円未満」（16.5%）、「10～15 万円未満」（10.2%）などとなっています。

- 妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、「20 代」11.4 万円、「30 代」9.3 万円、「40 代」10.5 万円、「50 代」11.3 万円となっており、「30 代」を除き 10 万円を超えました。
- 居住地区別に“渡した”人の平均金額をみると、「東日本」（11.4 万円）、「西日本」（9.0 万円）となっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“0 円（渡さない）”（48.6%→48.0%）の割合はほぼ横ばいとなっており、渡した額の平均は 8.6 万円→10.6 万円と 2 万円アップしています。

7. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

芸能界では「AKB48」(41 件)、スポーツ界では「石川遼」(73 件)、「長友佑都」(44 件)が多い。その他の分野では、「枝野幸男」(12 件)、「東日本大震災被災者」(11 件)など。渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「サッカー日本代表」10,033 万円、「孫正義」4,867 万円、「石原軍団」3,700 万円がトップ 3。

2011 年前半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人(芸能人)

芸能界				
順位		件数	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
1	AKB48	41	495	10,000
2	江頭2:50	23	140	1,000
3	嵐	22	674	9,000
4	芦田愛菜	13	38	150
5	山本太郎	9	1,219	10,000
6	向井理	8	379	1,000
7	福山雅治	7	1,750	10,000
8	楽しんご	6	115	500
9	SMAP	5	440	1,000
	石原軍団	5	3,700	10,000

芸能界では「AKB48」(41 件)が圧倒的に多く、次いで「江頭 2:50」(23 件)、「嵐」(22 件)、「芦田愛菜」(13 件)があげられています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人(スポーツ界)

スポーツ界				
順位		件数	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
1	石川遼	73	840	10,000
2	長友佑都	44	602	10,000
3	安藤美姫	16	247	2,000
	イチロー	16	1,228	10,000
5	長谷部誠	13	262	1,000
6	浅田真央	12	412	1,000
7	ダルビッシュ有	8	456	1,000
8	内田篤人	5	380	1,000
	サッカー日本代表	5	10,033	50,000
	中田翔	5	170	500

スポーツ界では「石川遼」(73 件)が突出しており、「長友佑都」(44 件)、「安藤美姫」「イチロー」(各 16 件)がトップ 3 にあげられています。次いで、「長谷部誠」(13 件)などがあげられています。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「サッカー日本代表」が 10,033 万円、「イチロー」が 1,228 万円で、得票数との逆転がみられます。

表 5. 臨時ボーナスをあげたいと思う人(その他)

その他				
順位		件数	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
1	枝野幸男	12	194	1,000
2	東日本大震災で被災された皆さま	11	1,244	10,000
3	菅直人	9	1,363	10,000
4	孫正義	8	4,867	10,000
	福島第一原発の作業員の皆さま	8	1,738	10,000
6	自分	7	22	50
7	自衛隊	6	2,687	10,000

その他の分野では、「枝野幸男」(12 件)がトップ、次いで「東日本大震災で被災された皆さま」(11 件)、「菅直人」(9 件)、「孫正義」「福島第一原発の作業員の皆さま」(各

8 件)、「自分」(7 件)、「自衛隊」(6 件)などの順となっており、東日本大震災に関連した内容が目立っています。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「孫正義」が 4,867 万円、「自衛隊」が 2,687 万円などとなっています。

表 6. <参考:総合得票・ボーナス金額(平均)トップ 10>

順位		得票数
1	石川遼	73
2	長友佑都	44
3	AKB48	41
4	江頭2:50	23
5	嵐	22
6	安藤美姫	16
	イチロー	16
8	芦田愛菜	13
	長谷部誠	13
10	枝野幸男	12
	浅田真央	12

順位		平均金額 (万円)
1	サッカー日本代表	10,033
2	孫正義	4,867
3	石原軍団	3,700
4	自衛隊	2,687
5	福山雅治	1,750
6	福島第一原発の作業員の皆さま	1,738
7	菅直人	1,363
8	東日本大震災で被災された皆さま	1,244
9	イチロー	1,228
10	山本太郎	1,219

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の第 1 位と比べると、

【芸能界】「嵐」(45 件) → 「AKB48」(41 件)

【スポーツ界】「石川遼」(44 件) → 「石川遼」(73 件)

【その他】「蓮舫」(14 件) → 「枝野幸男」(12 件)

となっており、「石川遼」は 2010 年夏、2010 年冬と連続して 1 位となっています。

8. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると

「入っても あっという間に とんでいく」、「ボーナスで つなぐ家族の 笑顔かな」、「クールビズ ボーナスまでも 薄くする」、「ボーナスも 電気と一緒に 節約だ」、「ボーナス日 おかず増やして 夫待つ」など、主婦の思いはさまざま。

表 7. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数	参考	
			昨夏の 順位	昨夏の 件数
1	家計のやりくりの大変さ	155	1	123
2	ボーナスが出ただけマシ	73	5	23
3	ボーナスが出たことへの感謝	55	2	35
4	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	54	3	29
5	世相を反映(東日本大震災関連を含む)	49	—	—
6	使い道は旅行や食事	38	8	17
7	夫への感謝の気持ち	31	7	18
	使い道は貯蓄が最優先	31	4	25
9	今後のボーナスが不安	16	6	20

夏のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」を詠んだもの、「ボーナスが出ただけマシ」と思う気持ちを表現する人が多くなっています。また、「クールビズ」や「節電」などの世相を反映したものや「東日本大震災」に関連したものも見られます。

なお、昨夏の川柳と比べると、「家計のやりくりの大変さ」を詠んだものが最も多い点は同じですが、今年は「ボーナスが出ただけマシ」が「ボーナスが出たことへの感謝」を上回っており、昨夏とは順位が逆転しています。

実際に詠まれた川柳の代表例は以下のとおりです。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・入っても あっという間に とんでいく
- ・ボーナスは 子供の塾の 肥やしかな
- ・ボーナスで マイナス分を とりかえす
- ・ボーナスは 一時停止 急発進

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・ボーナスが もらえるだけでも ありがたい
- ・ボーナスは ないと思えば 得てうれし

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・ボーナスで つなぐ家族の 笑顔かな
- ・ありがとう 大きな車に なりました
- ・変わらない それが一番 幸せです
- ・ボーナスが あるだけ感謝の 再就職

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナスが 減って夫婦の 会話減る
- ・税金で がっくり手取り 予想外

【世相を反映】（東日本大震災関連など）

- ・クールビズ ボーナスまでも 薄くする
- ・ボーナスも 電気と一緒に 節約だ
- ・経済に 貢献するぞと 無駄遣い
- ・ボーナスを たくさん使って 復興へ
- ・震災で 普通が感謝の ボーナスに
- ・震災を 乗り越え家族の 支え金

【使い道は旅行や食事】

- ・ボーナスで ストレス癒す プチ贅沢
- ・ボーナスが 出たと喜び 回転すし
- ・夏の旅行 グレード決まる ボーナス日

【夫への感謝の気持ち】

- ・ボーナス日 おかず増やして 夫待つ
- ・ボーナスは 努力の結晶 ありがとう
- ・ボーナス日 この日だけは 惚れ直す

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・ボーナスは 今後のためよと 銀行へ
- ・ありがとう ボーナス全部 貯めてます

【今後のボーナスが不安】

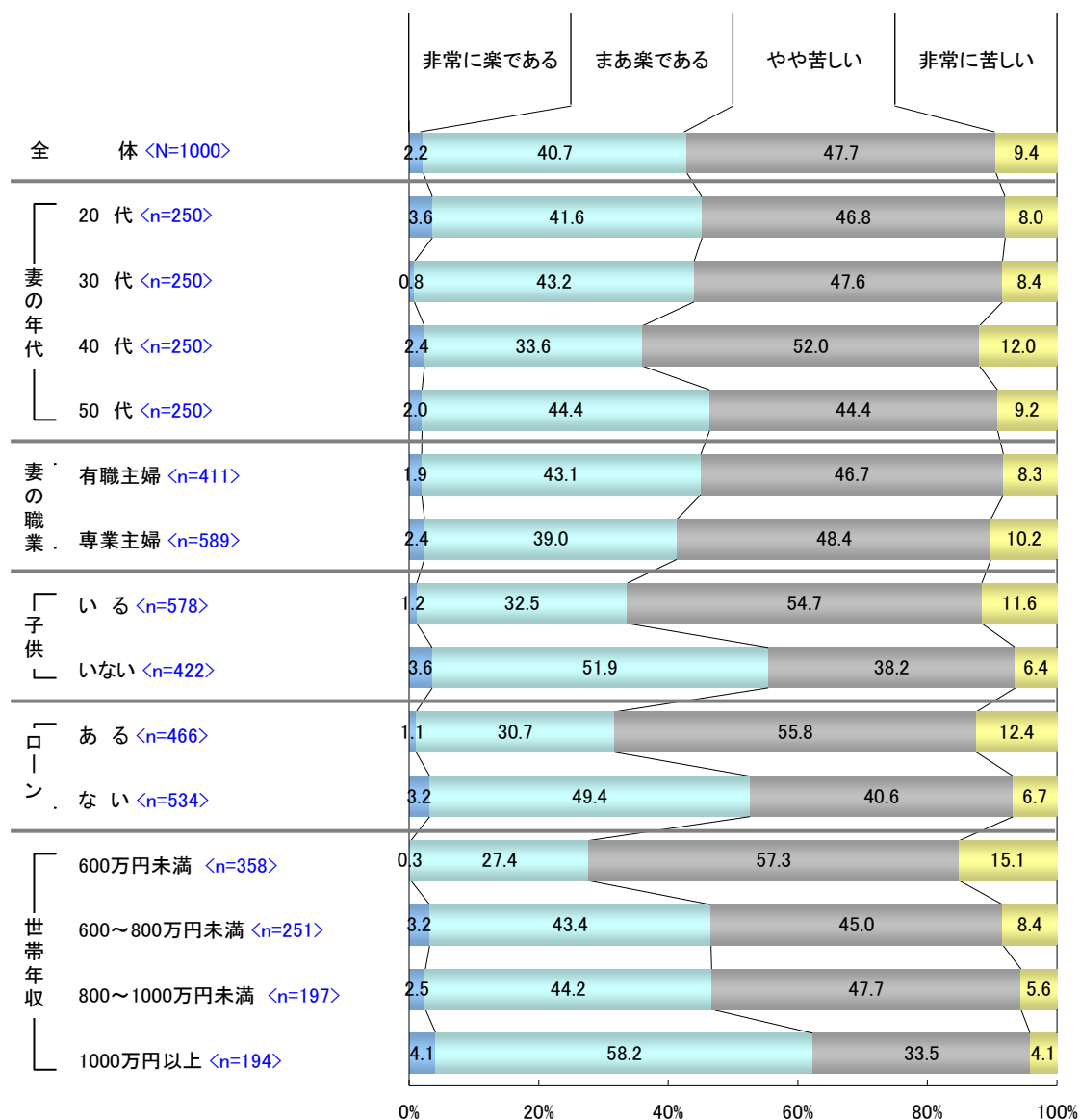
- ・ボーナスが 出たのに 次の心配し
- ・来年は 支給されるか どうなるか？

〔2〕 わが家の家計

1. 家計についての現状認識

“苦しい”(57.1%)が、“楽である”(42.9%)を上回り、依然として“厳しい”という認識が強い。
 ※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 8. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いたところ、“楽である”(42.9%)は約4割にとどまり、“苦しい”(57.1%)が上回っています。依然として家計は苦しい状況が続いているようです。

- 妻の年代別にみると、《40代》で“苦しい”(64.0%)の割合が比較的高くなっています。

- 妻の職業別にみると、“苦しい”の割合は《専業主婦》(58.6%)の方が《有職主婦》(55.0%)より高くなっています。
- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“苦しい”の割合は《いる》では6割強(66.3%)を占めており、《いない》(44.6%)よりも20ポイント以上上回っています。
- 住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識はローンが《ある》(68.2%)が《ない》(47.3%)を20ポイント以上上回っています。
- 世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“楽である”の割合が高く、《600万円未満》(27.7%)と《1000万円以上》(62.3%)とでは家計に対する認識に大きな差が生じています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“楽である”(44.2%→42.9%)、“苦しい”(55.8%→57.1%)と、家計がやや“苦しく”なっている状況がうかがえます。

■ 現状認識の理由 ■

表 8. 家計の現状認識の理由

楽だと思う理由			苦しいと思う理由		
順位		件数	順位		件数
1	苦労して生活していないから／余裕があるから	72	1	子供の教育費がかかるため	137
2	毎月貯金できているので／蓄えがあるから	50	2	給料が減ったため・少ないため	117
3	夫・自分の収入が良いので	43	3	ローンがあるので／家・車などを購入したため	71
	節約しているから／あまり贅沢をしないから	43	4	共働きでないから／仕事を辞めたから	41
5	共働きだから	37	5	貯金がありませんため・できないため	25
6	子供がいないから／夫婦二人だけなので	32	6	節約しないと生活できないので	24
7	子供が独立したので	25	7	子供が生まれたから／家族が増えたから	23
8	各種ローンがないから・終わったから	19	8	不景気だから	22
9	たまに贅沢や無駄遣いができるから	16	9	ボーナスが減ったから・ないから	16
10	家族が食べていけているから／人並みな暮らしができていけるから	15		震災の影響が大きいから	16

次に家計についての現状認識の理由について聞いてみました。

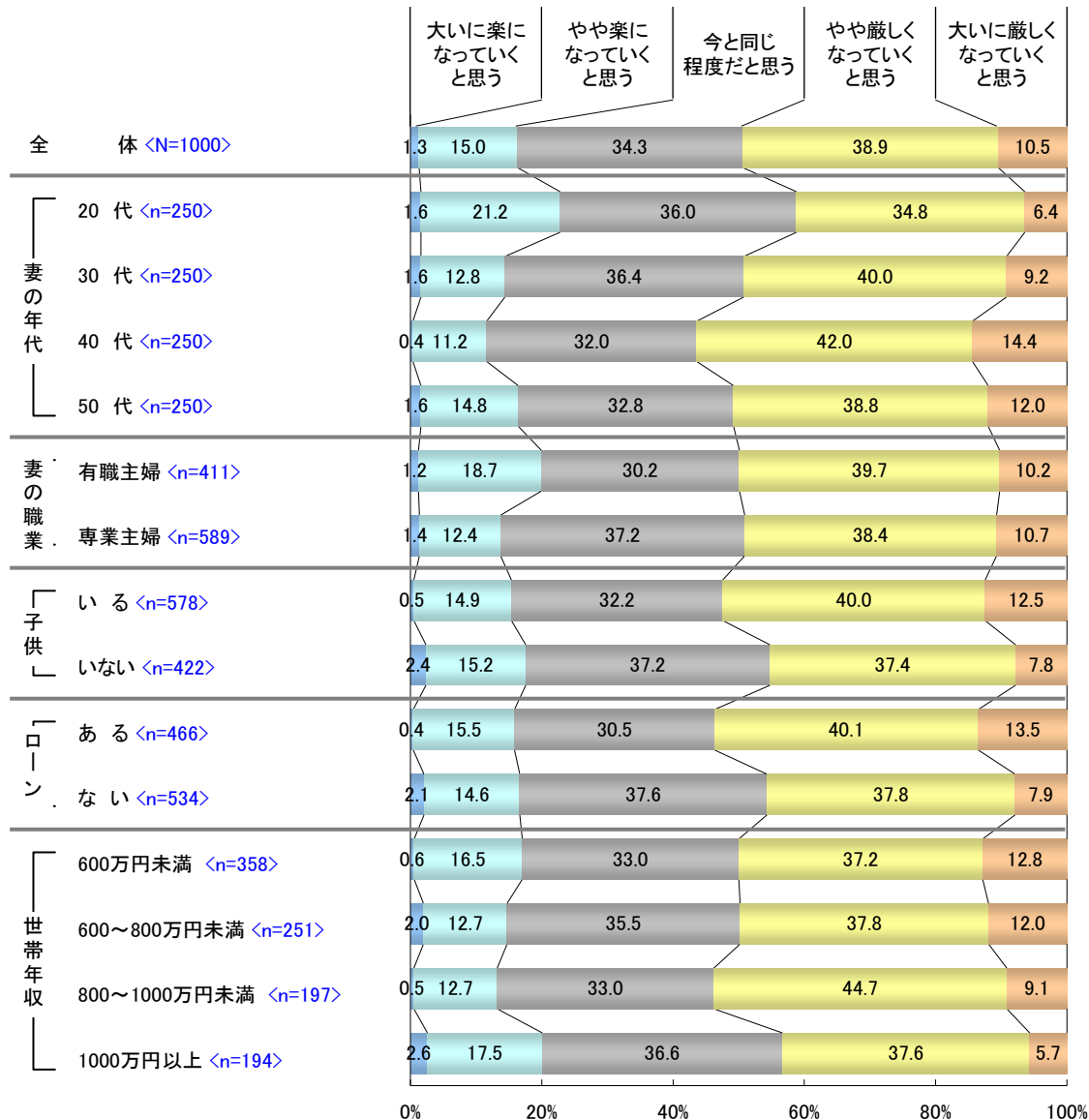
“楽だと思う”理由は、「苦労して生活していないから／余裕があるから」（72件）、
「毎月貯金できているので／蓄えがあるから」（50件）、「夫・自分の収入が良いので」「節約しているから／あまり贅沢をしないから」（各43件）がトップ3となっています。次いで「共働きだから」（37件）、「子供がいないから／夫婦二人だけなので」（32件）などがあげられています。

一方、“苦しいと思う”理由は、「子供の教育費がかかるため」（137件）、「給料が減ったため・少ないため」（117件）が100件を超えています。次いで「ローンがあるので／家・車などを購入したため」（71件）、「共働きでないから／仕事を辞めたから」（41件）、「貯金がありませんため／できないため」（25件）などがあげられています。

2. 今後の家計の見通しとその理由

“厳しくなっていく” が約 5 割(49.4%)を占め、“楽になっていく”(16.3%)は1割台にとどまる。
 ※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや楽になっていくと思う」「大いに楽になっていくと思う」の合計を表します。

図 9. 今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、“楽になっていく”（16.3%）と前向きにとらえている人は1割台にとどまり、“厳しくなっていく”（49.4%）と考えている人が約5割を占めています。また、「今と同じ程度だと思う」（34.3%）という見方は3割強と、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

- 妻の年代別にみると、《40代》で“厳しくなっていく”（56.4%）の割合が家計の現状認識同様、他の年代層に比べて高くなっています。
- 妻の職業別には特に違いはみられません。

- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると《いる》の方が“厳しくなっていく”（52.5％）の割合が高くなっています。
- 住宅ローンの有無別にみると、“楽になっていく”の割合に差はありませんが、“厳しくなっていく”との見方はローンが《ある》（53.6％）方が《ない》（45.7％）より多くなっています。
- 世帯年収別にみると、“厳しくなっていく”の割合は《800～1000 万円未満》（53.8％）で最も高くなっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“楽になっていく”（15.6％→16.3％）に大きな変化はありません。一方“今と同じ程度だと思う”（43.6％→34.3％）が減少した分“厳しくなっていく”（40.8％→49.4％）が 10 ポイント近く増加しています。

■今後の見通しの理由■

表 9. 家計の今後の見通しの理由

楽になっていくと思う理由			厳しくなっていくと思う理由		
順位		件数	順位		件数
1	子供が独立して教育費が軽くなるので	38	1	子供の教育費が増えるため	184
2	収入が増える見込みがあるので	36	2	収入が増えないので／給料が減ったので	70
3	共働きになるから	26	3	子供が生まれたから／出産予定があるから	68
4	ローンが減っていくため・終わるため	11	4	定年が近いから	38
5	節約して貯金をしているので	9	5	不景気だから	36
6	夫が転職したので／家業を継いだので	6	6	家や車を購入するから／ローンが残っているから	22
7	今が一番苦しいと思うので	4	7	震災の影響が大きいから	17
	景気が回復すると思うので	4		税金が上がるから／控除・減税がなくなるから	17
9	家が賃貸でなくなったので	3	9	先行きが全く見えないので／不安だから	12
	年金の受給が始まるので	3	10	会社の経営が低迷している	11

今後の家計の見通しについてもその理由を聞いてみました。

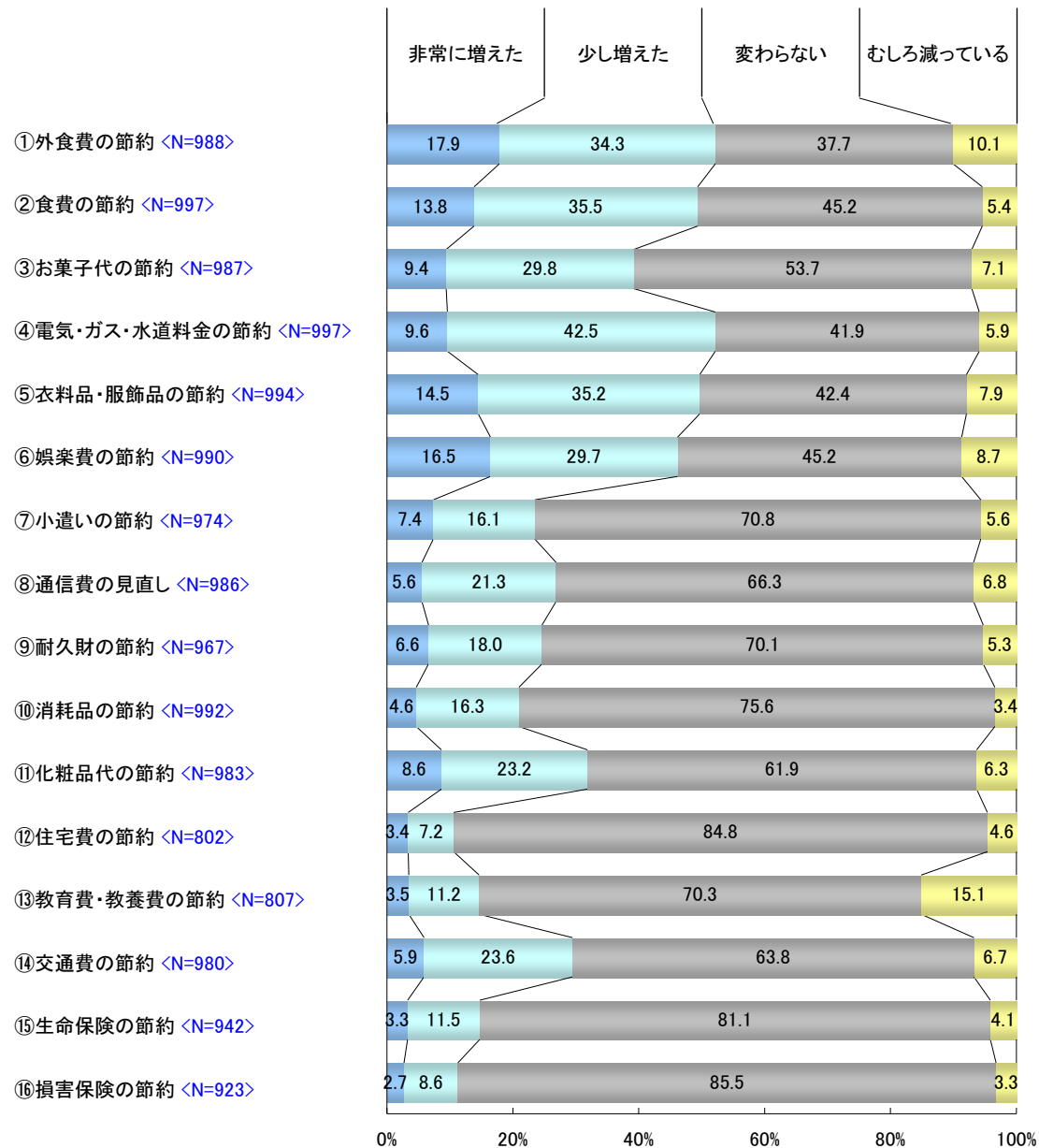
“楽になっていくと思う”理由は、「子供が独立して教育費が軽くなるので」（38件）、
「収入が増える見込みがあるので」（36件）、「共働きになるから」（26件）がトップ3
となっています。次いで「ローンが減っていくため・終わるため」（11件）、「節約して
貯金をしているので」（9件）、「夫が転職をしたので・家業を継いだので」（6件）など
となっています。

“厳しくなっていくと思う”理由としては、「子供の教育費が増える」（184件）が突
出しており、「収入が増えないので・給料が減ったので」（70件）、「子供が生まれたから・
出産予定があるから」（68件）がトップ3となっています。以下、「定年が近いから」（38
件）、「不景気だから」（36件）、「家や車を購入するから・ローンが残っているから」（22
件）などがあげられています。

3. 家計防衛のための節約行動の増減

以前に比べ節約する機会が“増えた”項目は、「外食費の節約」(52.2%)、「電気・ガス・水道料金の節約」(52.1%)、「衣料品・服飾品の節約」(49.7%)、「食費の節約」(49.3%)など。一方、節約する機会が「むしろ減った」項目は、「教育費・教養費の節約」(15.1%)。
※“増えた”は、「非常に増えた」「少し増えた」の合計を表します。

図 10. 節約する機会は以前に比べ増えているか



以前に比べ節約する機会が増えているかどうかを16の項目について聞いた結果、“増えた”という回答が最も多かったのが「外食費」で52.2%、以下、「電気・ガス・水道料金」(52.1%)、「衣料品・服飾品」(49.7%)、「食費」(49.3%)などの項目の節約機

会が増えています。一方、“増えた”という回答が少なかったのは「住宅費の節約」(10.6%)、「損害保険の節約」(11.3%)、「生命保険の節約」(14.8%) などとなっています。

以前に比べ節約する機会が「むしろ減った」という項目は全般に少ないものの、「教育費・教養費の節約」(15.1%)、「外食費の節約」(10.1%) の2項目の回答が1割を超えています。

- 居住地区別にみると、“増えた”という回答の上位7項目は下表のようになっており、《東日本》は「電気・ガス・水道料金の節約」、「交通費の節約」(30.7%→西日本は27.1%) が上回り、《西日本》は「食費の節約」や「教育費・教養費の節約」(17.6%→東日本は13.2%)、「通信費の見直し」(29.8%→同25.5%) が上回っています。

＜東日本のトップ7＞

1位	電気・ガス・水道	55.0%
2位	外食費	52.7%
3位	衣服費	49.4%
4位	食費	47.3%
5位	娯楽費	46.5%
6位	お菓子代	39.2%
7位	交通費	30.7%

＜西日本のトップ7＞

1位	食費	53.5%
2位	外食費	51.4%
3位	衣服費	50.3%
4位	電気・ガス・水道	46.4%
5位	娯楽費	45.4%
6位	お菓子代	39.1%
7位	化粧品	34.4%

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“増えた”という回答の上位7項目は下表のようになっており、「電気・ガス・水道料金の節約」(30.7%→52.1%) が大幅に増えています。大震災による電力不足の影響が如実に表れた結果となっています。

＜昨夏のトップ7＞

1位	食費	54.2%
2位	外食費	50.6%
3位	衣服費	49.8%
4位	娯楽費	44.2%
5位	お菓子代	42.3%
6位	電気・ガス・水道	30.7%
7位	化粧品	29.5%

＜今年の夏のトップ7＞

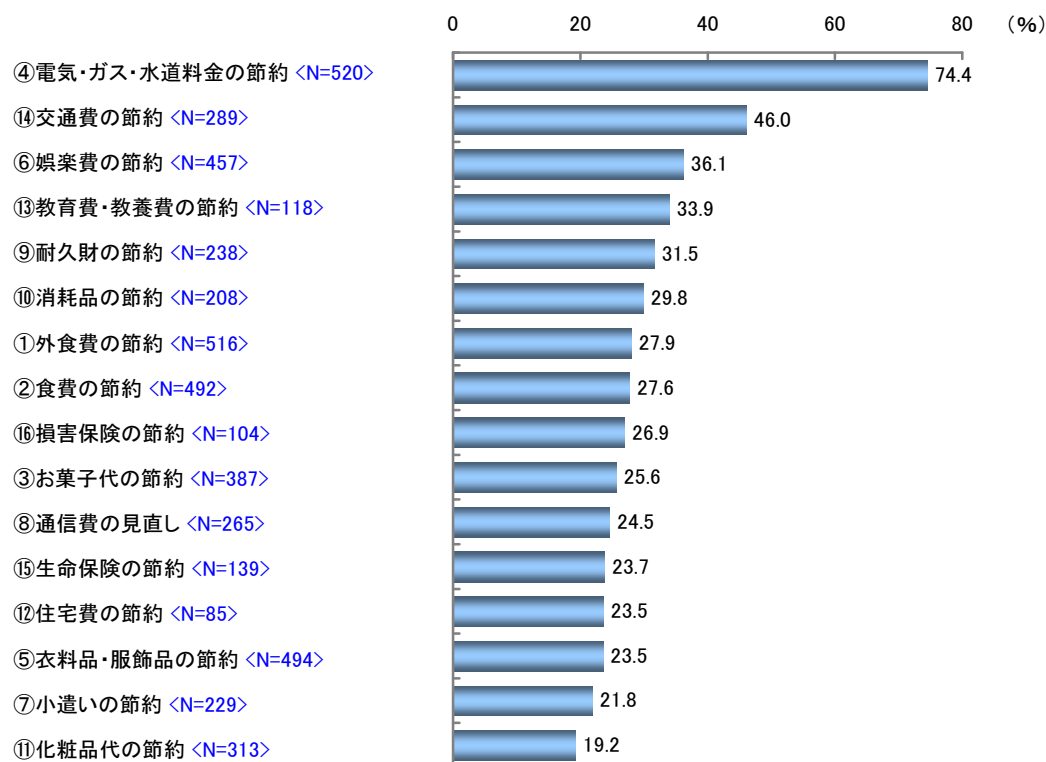
1位	外食費	52.2%
2位	電気・ガス・水道	52.1%
3位	衣服費	49.7%
4位	食費	49.3%
5位	娯楽費	46.2%
6位	お菓子代	39.2%
7位	化粧品	31.8%

< 東日本大震災の影響による節約 >

以前に比べ節約する機会が“増えた”回答の中で“東日本大震災が影響している”項目は、「電気・ガス・水道料金の節約」(74.4%)、「交通費の節約」(46.0%)、「娯楽費の節約」(36.1%)など。

一方、震災の影響が少ない項目は、「化粧品代の節約」(19.2%)、「小遣いの節約」(21.8%)など。

図 11. 節約機会が増えた項目別東日本大震災の影響の有無(影響ありの割合)



次に、以前に比べ節約する機会が“増えた”項目について、東日本大震災の影響（震災後の社会情勢や雰囲気なども含む）があったかどうかを聞いたところ、“影響している”項目は、「電気・ガス・水道料金の節約」(74.4%)が突出しており、「交通費の節約」(46.0%)、「娯楽費の節約」(36.1%)などとなっています。

一方、震災の影響が少ない項目は、「化粧品代の節約」(19.2%)、「小遣いの節約」(21.8%)などで2割前後となっています。

〔3〕 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

4 割以上 (44.7%) が『夫に内緒の資産』を持っている。

◆内緒の資産を持っている人の平均額は「336.6 万円」。目的は「いざという時の備え」(137 件)、「老後の備え」(93 件)、「自分の趣味や買い物のための資金」(42 件)がトップ 3。

◆内緒の資産の原資は、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(60.4%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(33.6%)が多い

◆今年に入ってから増減は、「減った」(29.5%)が「増えた」(21.0%)を上回る。

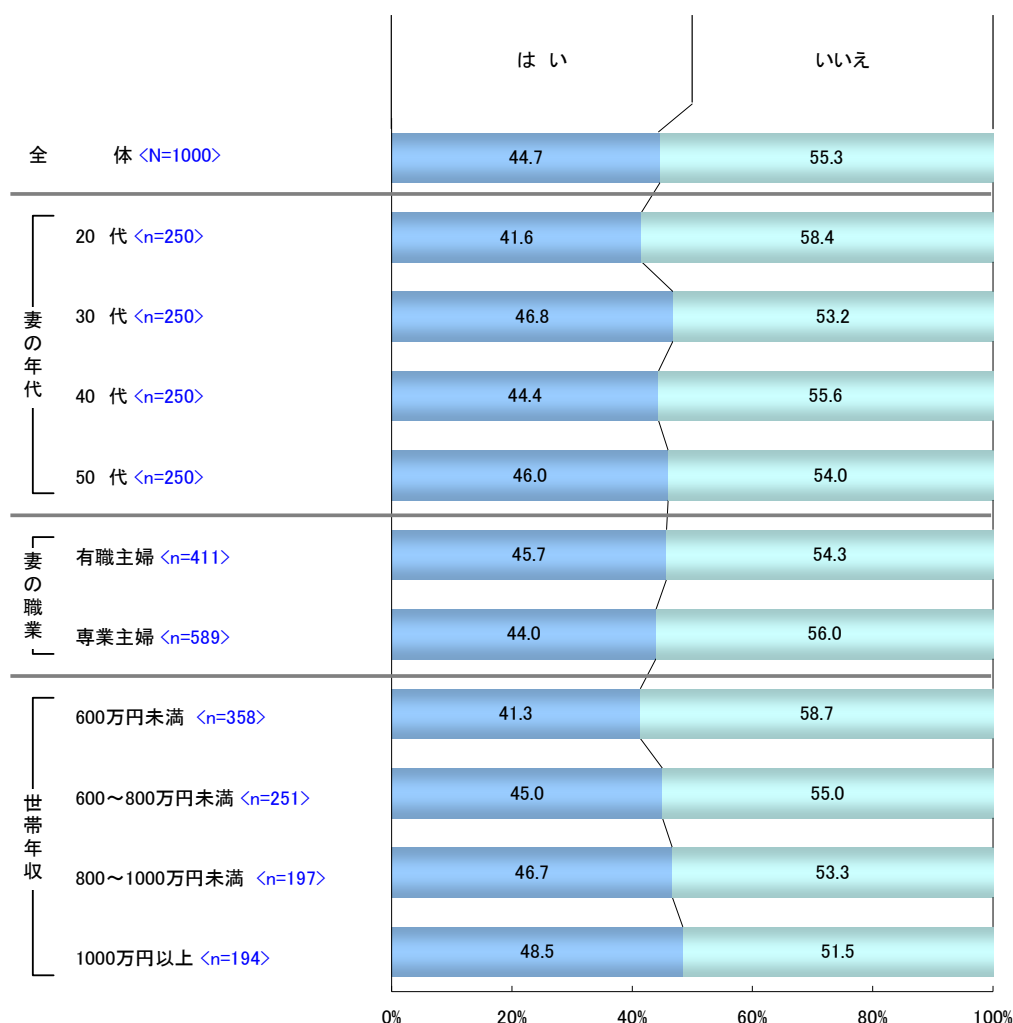
◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(39.4%)がトップ。

◆減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(36.4%)がトップ。

◆内緒の資産の今後の見通しは、「増える」(37.1%)が「減る+なくなる」(19.5%)を大きく上回る。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない奥様名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 12. 『夫に内緒の資産』の有無



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、4割以上（44.7%）が「ある」と回答しています。

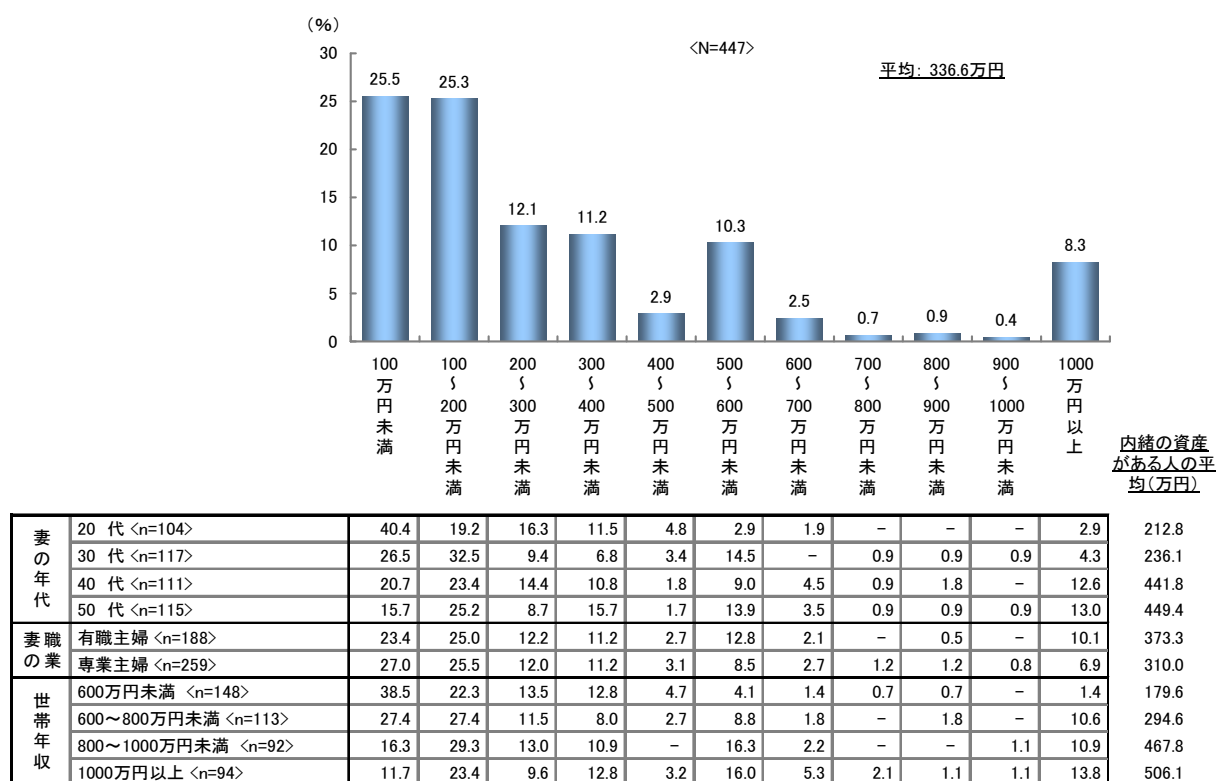
- 妻の年代別にみると、保有率は《30代》（46.8%）、《50代》（46.0%）、《40代》（44.4%）、《20代》（41.6%）の順で、《20代》がやや低めの結果となっています。
- 妻の職業別にみると、保有率は《有職主婦》（45.7%）が《専業主婦》（44.0%）を僅かに上回っています。
- 世帯年収別にみると、世帯年収が高くなる程保有率も高くなっています。《600万円未満》（41.3%）は約4割、《1000万円以上》（48.5%）は5割近い保有率となっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、『夫に内緒の資産』を持っている人の割合は、45.0%→44.7%とほぼ横ばいとなっています。

2. 『夫に内緒の資産』の保有額

図 13. 『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



次に、『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100 万円未満」（25.5%）、「100～200 万円未満」（25.3%）が多く、以下、「200～300 万円未満」（12.1%）、「300～400 万円未満」（11.2%）、「500～600 万円未満」（10.3%）などとなっています。資産保有者の平均額は「336.6 万円」です。

ちなみに、最高金額は 5,500 万円（1 名）でした。

- 妻の年代別に資産額の平均をみると、年代にともなって金額が高くなり、《50 代》（449.4 万円）が《20 代》（212.8 万円）の 2 倍以上となっています。
- 妻の職業別にみると、《有職主婦》（373.3 万円）と《専業主婦》（310.0 万円）で約 60 万円の差がみられます。
- 世帯年収別にみると、年収が高い家庭の主婦ほど資産額が高くなっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、平均金額は 364.5 万円→336.6 万円と、27.9 万円減少しています。

表 10.『夫に内緒の資産』を持つ目的

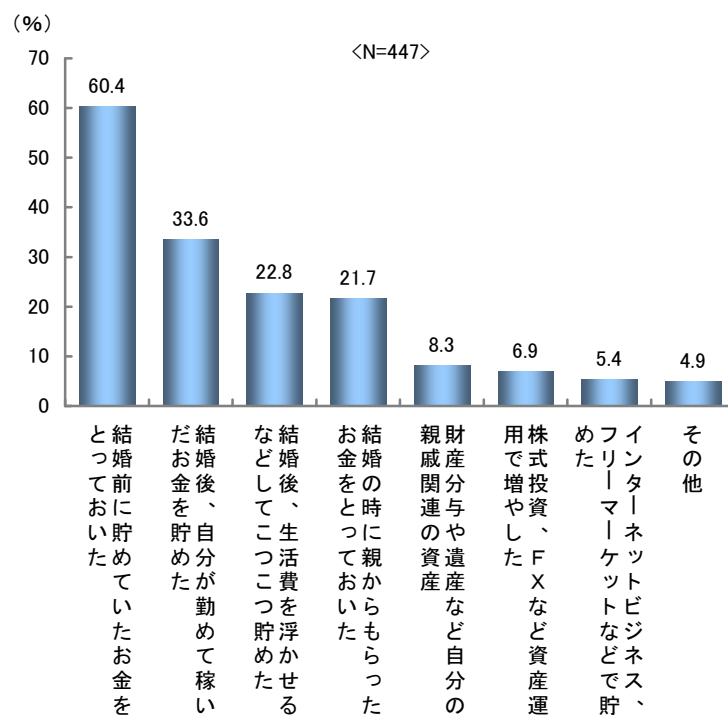
順位		件数
1	何かあった時の備え	137
2	老後の備え	93
3	趣味や買い物など、自分のために使う	42
4	子供のため(教育費、結婚資金など)	32
5	家族の病気に備えて	20
	旅行の資金	20
7	もし離婚した時の備え	16
8	夫の失業などで経済的に困った時の備え	12
9	家や車の購入資金	11
10	親の老後のため、介護費用など	8

『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているのかを自由にあげてもらいました。

「何かあった時の備え」(137 件)が 100 件を超えて突出しており、「老後の備え」(93 件)、「自分の趣味や買い物のための資金」(42 件)がトップ 3 となっています。以下、「子供の将来のための資金」(32 件)、「家族が病気になった時の備え」「旅行の資金」(各 20 件)などがあげられています。

急な出費や今後の生活の変化に備える目的で夫に内緒の資産を持つ人が多い一方で、「自分の趣味や買い物のための資金」、「旅行の資金」など、自分のお小遣いと考えている人も少なくありません。

図 14.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか(複数回答)



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(60.4%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(33.6%)となり、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。

以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(22.8%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(21.7%)となっています。

「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(8.3%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(6.9%)、「インターネットビジネスなどでお金を貯めた」(5.4%)は各1割未満でした。

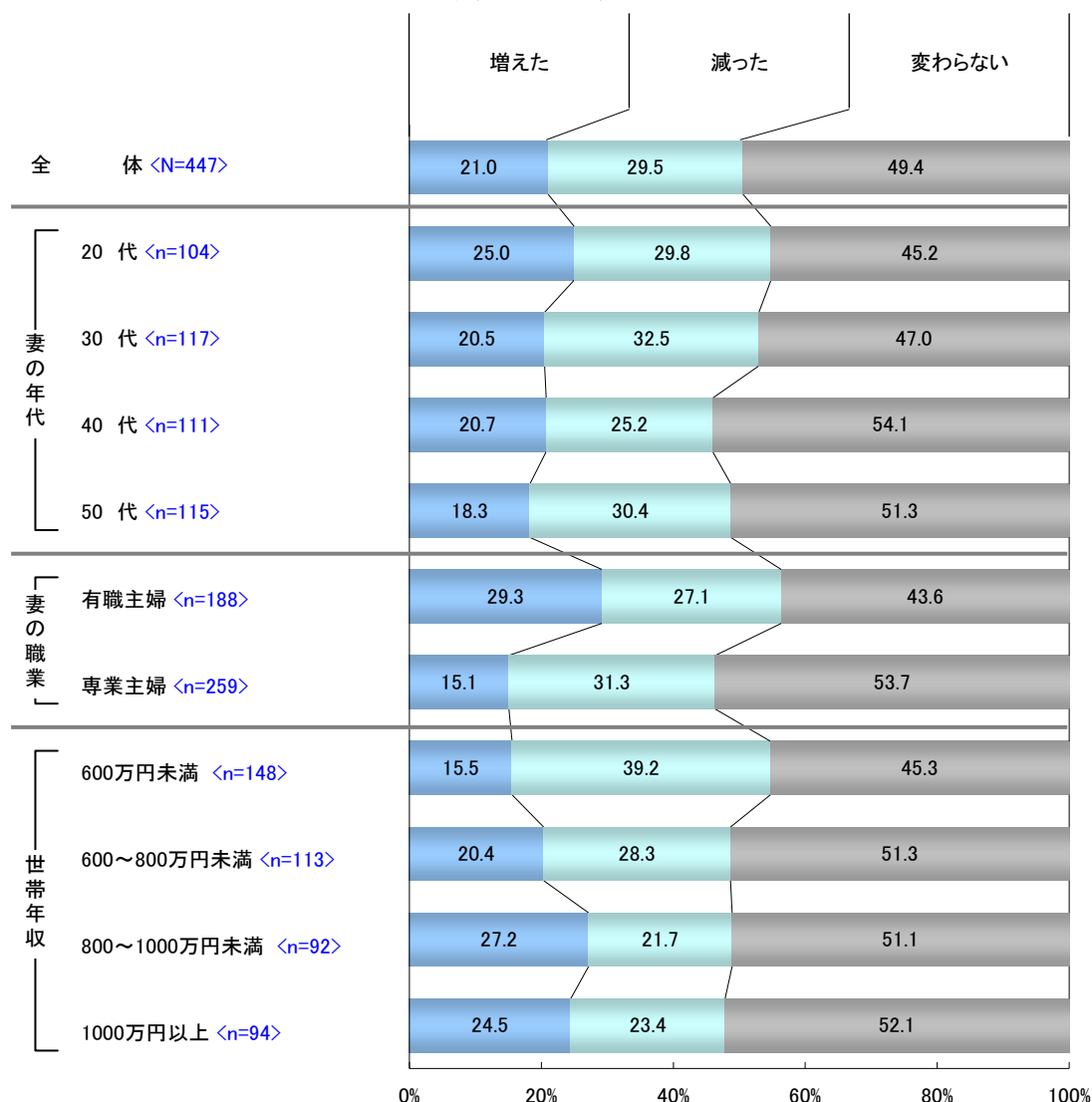
表 11.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか(複数回答)【内緒の資産額別%表】

		(%)								
		サ ン プ ル 数	結 婚 前 に 貯 め て お い た お 金 を	結 婚 後、 自 分 が 勤 め て 稼 い だ お 金 を 貯 め た	結 婚 後、 生 活 費 を 浮 か せ る な ど し て こ つ こ つ 貯 め た	結 婚 の 時 に 親 か ら も ら っ た お 金 を と っ て お い た	親 財 産 分 与 や 遺 産 な ど 自 分 の 親 戚 関 連 の 資 産	株 式 投 資、 F X な ど 資 産 運 用 で 増 や し た	め た フ リ ー マ ー ケ ッ ト ビ ジ ネ ス、 イ ン タ ー ネ ッ ト ビ ジ ネ ス な ど で 貯	そ の 他
全 体		447	60.4	33.6	22.8	21.7	8.3	6.9	5.4	4.9
内 緒 の 資 産	100万円未満	114	38.6	32.5	33.3	17.5	0.9	3.5	5.3	7.0
	100～200万円未満	113	62.8	30.1	19.5	18.6	8.8	4.4	6.2	6.2
	200～300万円未満	54	68.5	33.3	22.2	27.8	3.7	7.4	7.4	—
	300～500万円未満	63	74.6	36.5	15.9	36.5	4.8	7.9	4.8	3.2
	500～1000万円未満	66	69.7	37.9	21.2	22.7	15.2	7.6	3.0	6.1
	1000万円以上	37	67.6	35.1	16.2	8.1	29.7	21.6	5.4	2.7

参考までに内緒の資産額別の傾向をみると、【100 万円未満】では「結婚前に貯めておいたお金をとっておいた」(38.6%)と「結婚後、生活費を浮かせるなどして貯めた」(33.3%)が共に 3 割台なのに対して、【100 万円】以上では「結婚前に貯めておいたお金をとっておいた」(6 割以上)の割合が非常に高く、「結婚後、生活費を浮かせるなどして貯めた」(2 割前後)は低い結果となっています。

3. 『夫に内緒の資産』の増減

図 15. 今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減



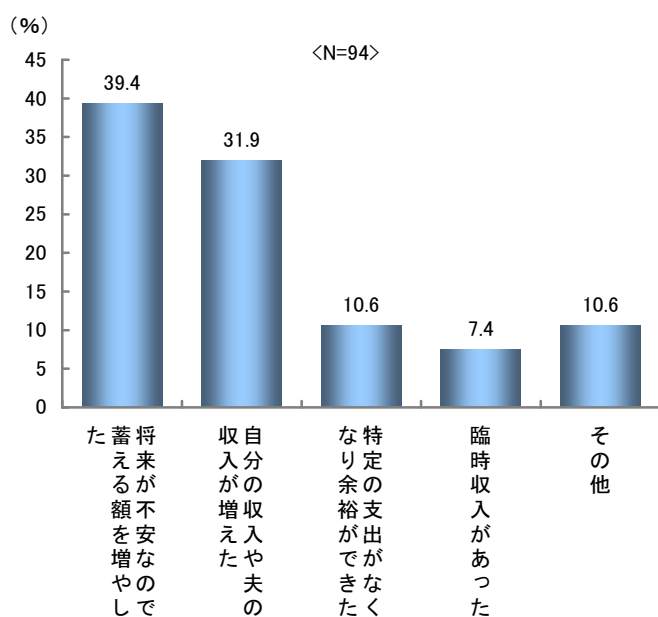
次に、今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「変わらない」(49.4%)が約5割を占めています。また、「減った」が3割(29.5%)で「増えた」(21.0%)を上回っています。

- 妻の年代別にみると、「増えた」は《20代》(25.0%)がやや高くなっています。
- 妻の職業別にみると、「増えた」は《有職主婦》(29.3%)が《専業主婦》(15.1%)の約2倍になっています。
- 世帯年収別にみると、《800～1000万円未満》《1000万円以上》は共に「増えた」が「減った」より高い割合になっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「増えた」(27.6%→21.0%)、「減った」(34.2%→29.5%)が共に約5ポイント減少し、「変わらない」(38.2%→49.4%)は11ポイント以上増加しています。

図 16.「増えた」最も大きな理由

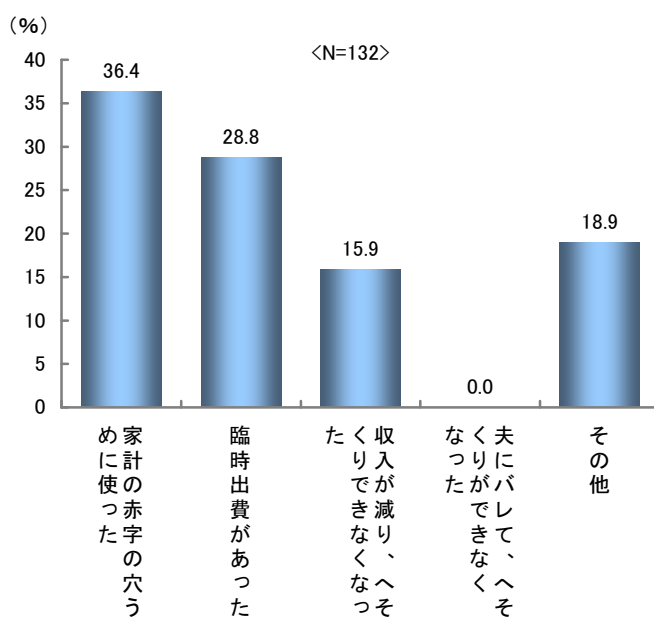


増えた人の理由をみると、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(39.4%)が最も多く、次いで「自分の収入や夫の収入が増えた」(31.9%)、「特定の支出がなくなり余裕ができた」(10.6%)となり、「臨時収入があった」(7.4%)は1割未満です。なお、「臨時収入があった」の具体的な内容としては、「遺産相続」「出産祝い金」「手術時の保険金給付」などがあげられています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、「自分や夫の収入が増えた」(33.9%→31.9%)は少し減り、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(27.4%→39.4%)が増加しており、1位と2位の順番が逆転しています。

図 17.「減った」最も大きな理由



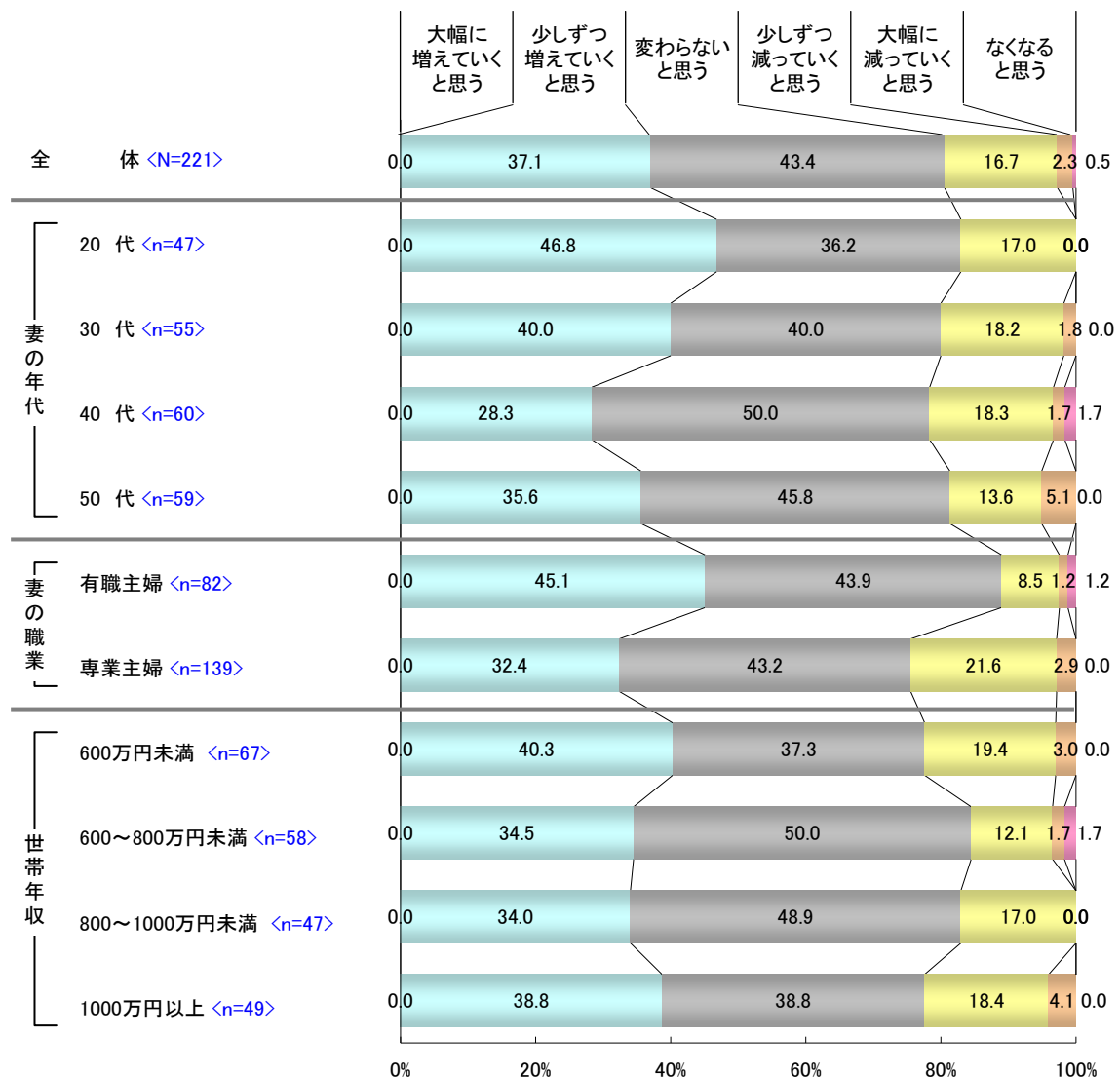
一方、減った人の理由は「家計の赤字の穴うめに使った」(36.4%)がトップ、次いで「臨時出費があった」(28.8%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(15.9%)の順となっています。なお、「臨時出費があった」の具体的な内容としては、「冠婚葬祭」「家族の病気の治療費」「住宅購入資金」「旅行」「子供の教育費」「東日本大震災関連費」などがあげられています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、「家計の赤字の穴うめに使った」(42.9%→36.4%)、「臨時出費があった」(26.0%→28.8%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(15.6%→15.9%)の順位に変化はみられませんが、「家計の赤字の穴うめに使った」が5ポイント以上減少しています。

4. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し

図 18. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している回答者に今後の資産増減の見通しについて聞いたところ、“変わらないと思う”（43.4%）が最も多い結果となっています。また、“増えていくと思う”（37.1%）が、“減っていく＋なくなると思う”（19.5%）より 15 ポイント以上高くなっています。

- 妻の年代別にみると、“増えていくと思う”は《20代》で約半数（46.8%）と高くなっています。
- 妻の職業別にみると、“増えていくと思う”は《有職主婦》（45.1%）が《専業主婦》（32.4%）より 10 ポイント以上高くなっています。
- 世帯年収別にみると、《600万円未満》の層は“変わらないと思う”（37.3%）という回答がやや少なく、“増えていくと思う”（40.3%）と“減っていく＋なくなると思う”（22.4%）が共に最も多くなっています。

表 12. 『夫に内緒の資産』の見通しの理由

増えていくと思う理由			減っていくと思う理由			変わらないと思う理由		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	継続して貯めているため	33	1	使う機会が増えているから	11	1	増やす気がないから／手を付けなかつもりだから	19
2	働き始めたから／まだ働くつもりだから	12	2	生活費に充てているから	8	2	自分が働いていないため	14
3	増やしたいという気持ちがあるから	11	3	子供の教育費などに回すから	7		特に使う予定がないから	14
4	生活費などを節約しているから	6	4	自分が仕事を辞めたから	6	4	増やす余裕はないから	12
5	投資などで増えそうだから	5	5	これ以上増えることはないから	4	5	今は夫に知らせているため	5
6	使う予定が特にないので	3				6	今の収入は夫が管理しているため	4
	利息分増えるから	3					今の収入はすべて家計に入れるため	4
							貯めた分だけ使っているから	4
						9	定期預金にしているため	3

『夫に内緒の資産』の見通しについてその理由を聞いてみました。

“増えていくと思う”理由は、「継続して貯めているため」（33件）、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」（12件）、「増やしたいという気持ちがあるから」（11件）などが主な理由となっています。また、「生活費などを節約しているから」（6件）、「投資などで増えそうだから」（5件）といった理由も見られます。

“減っていくと思う”理由としては、「使う機会が増えているから」（11件）が10件を超え、次いで「生活費に充てているから」（8件）、「子供の教育費に回すから」（7件）、「自分が仕事を辞めたから」（6件）などがあげられています。

“変わらないと思う”理由は、「増やす気がないから・手を付けなかつもりだから」（19件）、「自分が働いていないため」「特に使う予定がないから」（各14件）、「増やす余裕がないから」（12件）などとなっています。

〔４〕東日本大震災による生活や意識の変化

1. 震災がきっかけで処分したものまたは今後処分予定のもの

震災をきっかけに「不用品」(31 件)や「いらない衣類、カバンなど」(26 件)、「使わない食器類」(21 件)や「賞味期限の切れた非常用食品」(20 件)などを処分。

表 13. 震災がきっかけで処分したもの

順位		件数
1	不用品	31
2	いらない衣類、カバンなど	26
3	使わない食器類	21
4	賞味期限の切れた非常用食品	20
5	古本	10
6	使わなくなった家電製品	9
7	棚などの家具	8
8	おもちゃなど子供用品、子供服	6
9	CD、DVD、VHSなど	4
	雑貨類	4

東日本大震災がきっかけで処分したもの（または今後処分予定のもの）について聞いたところ「不用品」（31 件）、「いらない衣類、カバンなど」（26 件）、「使わない食器類」（21 件）、「賞味期限切れの非常用食品」（20 件）などが多くあげられています。

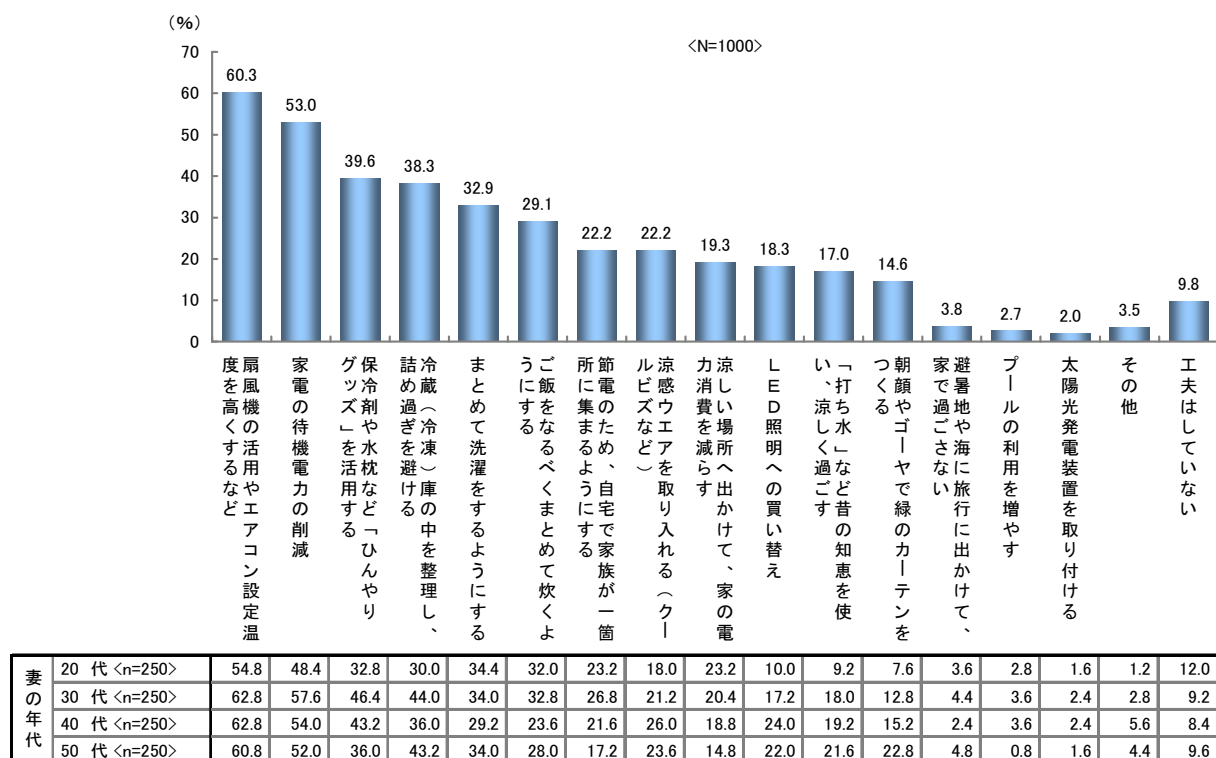
以下、「古本」（10 件）、「使わなくなった家電製品」（9 件）、「棚などの家具」（8 件）、「おもちゃなど子供用品、子供服」（6 件）などがあげられています。

今回の震災では、小さなものから大きなものまで様々なものが処分された様子がうかがえます。

2. 今年の夏を乗り切るための節電やエコの工夫

「扇風機の活用やエアコンの設定温度を高くするなど」(60.3%)、「家電の待機電力の削減」(53.0%)が5割を超える。

図 19. 節電やエコの工夫



次に、今年の夏を乗り切るための具体的な節電やエコの工夫について聞いたところ、「扇風機の活用やエアコンの設定温度を高くするなど」(60.3%)、「家電の待機電力の削減」(53.0%)がトップ2で5割を超えています。

次いで「保冷材や水枕など“ひんやりグッズ”を活用する」(39.6%)、「冷蔵庫（冷凍）庫の中を整理し、詰め過ぎを避ける」(38.3%)が約4割、「まとめて洗濯をするようにする」(32.9%)、「ご飯をなるべくまとめて炊くようにする」(29.1%)は3割前後となっています。

そのほか「クールビズなどの涼感ウェアを取り入れる」、「節電のため自宅で家族が一箇所に集まるようにする」、「涼しい場所へ出かけて、家の電力消費を減らす」、「LED照明への買い替え」、「「打ち水」など昔の知恵を使い、涼しく過ごす」、「朝顔やゴーヤで緑のカーテンをつくる」なども1割以上の人が実行しようとしています。

● 妻の年代別に見ると、以下のような特徴が見られます。

- 20代・・・「まとめて洗濯をする」「涼しい場所に出かける」が他の年代を上回る
- 30代・・・多くの項目で他の年代を上回り、最も工夫が活発
- 40代・・・「涼感ウェア」「LED照明」が他の年代を上回る
- 50代・・・「打ち水」「朝顔・ゴーヤなどの緑のカーテン」が他の年代を上回る